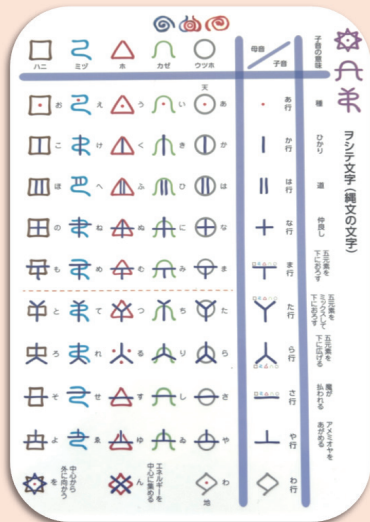


## ホツマの発見

ホツマに使われている文字をヲシテ文字と呼んでいます。縄文時代に使われていた文字とホツマ記述から解釈できます。

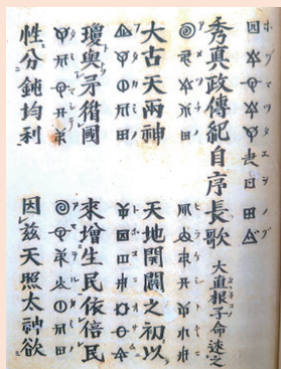


(注) この文字が古墳や土器などから見つからない理由は、当時の指導者が使用し、庶民には伝わっていなかったと解釈する研究者もいます。

江戸時代に和仁佑安聰（わにこやすとし）というヲシテ文献研究家がありました。

彼には井保勇之進、三輪安聰という名もありました。彼は、1735年頃（八代将軍徳川吉宗の時代）に、先祖から受け継いだヲシテ文献解読のために旅に出てそれを漢訳しました。（文献写真）

その文献は、1992年に和仁佑安聰の子孫、井保孝夫氏によって日吉神社（滋賀県高島市）の神輿蔵から発見されました。和仁佑安聰は三輪氏の子孫で、先祖は大物主（今の警察庁長官）の役職に就いていました。



(注) ヲシテ文字文献には『ホツマツタエ』『ミカサフミ』『フトマニ』があります。

## ホツマの内容・魅力

ホツマは、全40巻11万文字からなり、ヲシテ文字で書かれたやまと言葉を使い、五七調で書かれています。ホツマとは本当のこと、すぐれたことという意味。

日本国の始まりをクニトコタチのトコヨクニ（BC1万2千年頃）とし、景行天皇（紀元2世紀）まで、約1万3千年間の歴史を記しています。アマカミ（現在の天皇）の系譜をたどり、民に尽くす治世の在り方、お祝・お祓い、行事、お産や長生きの秘訣、たま（雅を感じる心）しい（欲の部分）の人生観、稲作と灌漑、機織り、帆船・馬による移動、建築と方角、宇宙観、枕詞の由来などが記されています。

ホツマ旅で、これまで解明されてこなかった史実や祖先と出会える喜びは、かけがいのないものになることでしょう。

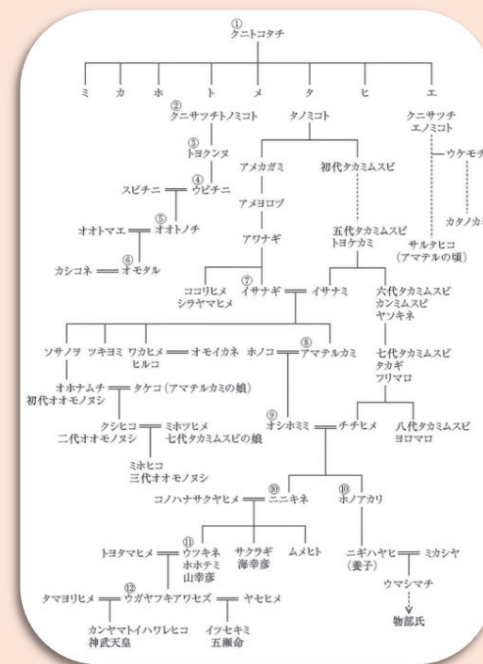
神社・仏閣・磐座・遺跡などの伝承をホツマ旅で紐解いていく楽しみは、生涯にわたって続いていくこととなります。



京都府京丹後市久治山（真名井岳）

ホツマによると、トヨケカミ、アマテルカミがこの山の祠で崩御されたことが分かります。

## ホツマの系譜



出典：『やさしいホツマツタエ』いときょう著

## 縄文ホツマ計画の組織

- 代表理事 北村教之  
 双日株式会社  
 千葉大客員教授
- 理事 一糸恭良  
 (ペンネームいときょう)  
 ホツマ出版株式会社取締役社長  
 縄文ホツマ塾 理事・塾長
- 理事 青木久義  
 ライトロード代表  
 (一社)日本ビジネス振興会理事  
 縄文ホツマ塾理事
- 理事 太田久美子  
 株式会社クリサンセマム432代表  
 縄文ホツマ塾理事長  
 ヲシテ文字判子アーティスト